



年計豫算大概緒言

2957



414
A1104
1



年計豫算大概緒言

第一項

一 当社就業十五年間：拾萬町歩ノ耕
 地ヲ成熟ナラシムルヲ期ス然ルキハ
 年々平均六千六百六拾六丁六畝六六ノ開
 墾スル賦ナリト虽モ實際初期ハ其賦ニ
 應ニ難シ強テ其賦ニ應ニ着手スル
 所ハ費額夥々ニシテ終ニ支フベカラ
 サルニ至ル者トス

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

第二項

一故に指萬町歩ヲ十五年間ニ割テ逐年
新墾ト播種耕作トヲ豫定スルニ
方テハ計年要領多三十二畝ニ指クル
如ク其資金ノ支フルヲ度トス然レモ
又々要領曰欵ノ末文ニ指クル如ク
百ノ成園ニ全地ヲ成熟セシムルヲ要
シ為メニ操揚借用ヲ得ル者ト見做シ
今後ニ年々播種ノ幅員ヲ豫定シ
其計年ノ概略ヲ示スヲ要ス

第三項

一前期五年中共初年ハ唯新墾ノミ
トシテ播種セサル者ト見做セリ故ニ表
面ノ費用ハ些少ナリト雖モ其實滿十
五年間事業ノ基礎ヲ立ツルハ概子以
初年ニ在リ而シテ人畜ノ雇買機械並
屋其他將來必需ノ物件等皆初年
ヨリ漸次ニ着手セサルベカラズ故ニ初年
ニ於テ新墾費拾萬圓ノ外ニ更ニ若
干四ノ操揚金借用ヲ得ル者リス

多田項

一右借田金員即當社員債ハ第何年ノ
 於テ消却シ得ル乎ノ豫算ヲ立ツル
 又先テ年々播種收穫ノ高テ豫算セ
 サルヘカラス故ニ今左ニ年計大概ノ
 ノ目途ヲ算シ以テ比較ノ一端ト考ス
 ト云

年度	新墾地幅	播種地幅	播種耕費	收穫高	費差及損益
第一年	三百丁				
第二年	六百丁	三百丁	金一万八千円 <small>一及六百円</small>	金一万八千円 <small>一及六百円</small>	損益ナシ
第三年	九百丁	九百丁	九万四千円	九万四千円	ナシ
第四年	千二百丁	千八百丁	十万八千円	十万八千円	ナシ
第五年	二千丁	三千丁	十八万円	十八万円	ナシ
第六年	四千丁	五千丁	三十万円	金三十万円 <small>一及付七円</small>	益金九万円
第七年	八千丁	九千丁	五十四万円	六十三万円	益金九万円
第八年	壹万丁	壹万七千丁	百一十萬円	百一十九万円	益金七万円
第九年	一万三千丁	二万七千丁	百五十万円	百一十九万円	益金三十一万円

第十年	壹万五千丁	四万丁	二百四十方町	二百四十方町	益金壹万方町
第十年	壹万五千丁	五万五千丁	三百三十方町	金四百四十方町 五百八方町	益金百十方町
第十年	一万五千丁	七方丁	四百三十方町	六百六十方町	益金壹万方町
第十年	一万五千丁	八万五千丁	五百十方町	六百五十方町	益金百十方町
第十年	十方丁	十方丁	六百方町	八百方町	益金百方町
第十年	十方丁	壹万肆千丁	三千六百方町	四千。三方町	九百八方町
總計	十方丁				

右總計ノ總益金九百拾八方町ノ内借用
金ノ利子ノ豫算外費目ヲ償却スル者ナシ

計纂要頌

114
A1104
2

計算要領

第一款

一 耕地ヲ新墾スルハ西洋機械ヲ用テ専用ニ耕牛四頭ヲ以テ詠機械ヲ牽キ一日ノ平均六百坪ヲ開墾シ一ケ年中ノ孰業ハ二百日ト見勵シ即チ拾二萬坪ニテ此所數ハ四拾町トス

第二款

一 右ノ計算ヲ以テ百町ヲ開墾スルハ即チ機械ハ二組半牛八十頭トス機械組人負ハ一機械ニ付三名ナルヲ以合計七名五分ノ割ニ當ル

大正十一年四月
侯爵邸寄贈

第三款

一牛一頭ノ買収代價金四拾五円ト仮定シ十頭ニテ
四百五拾円トス機械一組金四拾円トシ或組半ニ金百
円トス機械組人員二名年給三十円外ニ食料并ニ諸
費トモ四拾円トシ七名五分ノ合計五百貳拾五円トス

第四款

右耕牛并機械ハ年々病恙又ハ破損等アルベシ
故ニ此等ノ諸費ヲ流通概算ニ滿五年ニシテ消滅ス
ル者ト算セリ

第五款

一第三款ニ掲タル耕牛并機械買入代ヲ合計フルトキハ
五百五拾圓トス之ヲ第四款ノ賦ヲ以テ五割シ即チ百町
歩ノ新犁ニ對シ百拾円トナル者トス

第六款

一耕牛十頭ノ飼料ハ一頭ニ付一日金拾貳錢五厘トシテ
一ヶ年即チ百町歩ノ新犁ニ對スル十頭ノ入費合計
四百五拾六圓貳拾五錢トス

第七款

一人畜機械ノ住蔵スル家屋建坪ハ大ハ一名ニ付平均
一坪トシ牛ハ一坪半トシ物置ハ百町歩ニ十坪トス此

建築人畜物置各目精粗アリ之ヲ平均シテ
坪ノ入費金七圓トス即惣坪三十拾貳坪半ニテ此金
合計貳百貳拾七圓五拾錢トス

第八款

一右金貳百二十七圓五拾錢ヲ以テ一旦建築スルハ滿
十年ヲ維持スル者トス然ルハ新墾百所歩ニ對
スル家屋代ハ貳拾貳圓七拾五錢トス尤モ新開ノ地
所ハ年々轉移スルヲ以テ該建築物ハ再盤部即チ
耕作人馬機械等ノ住藏讓渡ス者ト見例シ計
算ヲ立テリ

第九款

一第三款第五款第六款第八款掲タル費目ヲ合計
スルハ金千百拾四圓トナル即百所歩新墾ノ入費
ナリ因テ算スルニ一及歩ニ付テハ金壹圓拾陸錢四厘ト
ナル

第十款

一右費目ノ外ニ會所建築費年賦金並會所諸
費且諸員保存金會所詰社負諸費且臨時
費用等合計金三百八十六圓トシ新墾百所歩ニ
關涉スル諸費金千五百圓

第十一款

一以上條款に掲ぐる入費ハ金千五百圓ハ新墾耕地百所歩に對スル目安ニシテ即一及歩ノ入費金壹圓五十銭トス

第十二款

一右ノ比較ヲ以テ拾万町歩新墾田墾スル入費總計ハ金百五十万圓トシ是れ株金或百萬圓利子或拾万圓ノ半額一ケ年金拾万圓宛滿十五年ニシテ該百五十萬圓ヲ得ル者トス

第十三款

一以下第二十四款ニ至ルマテ掲ぐる件々ハ墾テ新墾ニシタル

耕地ヲ西洋機械ヲ以テ碎塊シ之ニ播種シ之ヲ培養シ之ヲ収獲スル諸費ヲ概測シ百町歩ヲ目安トシ以テ豫算ヲ立ツル者トス

第十四款

一播種地百町歩ニ用タル機械各種必需タリト雖モ可成草簡ニシテ再墾ヲラセ「ハロフ」ヲ専用スル者トシ即チ再墾ヲラセ五組ハ「ロフ」五組トス此代價平均一組三十拾圓トシテ合計三百圓トス

第十五款

一右金三百圓ヲ以テ購入シタル器械滿五年ニシテ消滅

スル者トシテ其五分老金六拾圓トス

第十六款

一 耕馬一頭付五町歩ヲ耕ス賦ヲ以テ二十頭ヲ要ス其價
一頭三拾圓トシテ合計六百圓トス馬老ユシハ少ク價ト比
價ヲ保タヌ故ニ滿四年ニテ消滅スル者トシ則金百五十圓トス

第十七款

一 耕夫ハ耕馬ニ附屬スル者ヲ兼一夫二町ヲ受持者トス
耕夫一名年給平均貳拾五圓食料諸費三拾五圓合
計六拾圓トス即百町歩ニ對スル者ヲ要ス此費額
金三千圓トス

第十八款

一 機械運用指圖人五名ヲ附ス一名給料食料諸費
ヲ通算シ金七拾圓トス即合計金三百五十圓トス

第十九款

一 各種日本回慣小農具金百八十圓ト仮定シ該品
滿三年ニシテ消滅スル者ト見勵シ即金六拾圓トス

第二十款

一 家屋五十五名ニ對シ五十五坪馬二十頭ニ對シ三十坪機械
置場十坪收穫品置場三十坪統坪百貳拾五坪老
坪ノ建築費平均七圓トシテ金八百七十五圓トス此建物

滿十年保存スル者ト見做シ其十分ノ一金八十七圓五拾錢トス

第二十一款

一播種培養臨時雇夫ノ人費ハ其作物ニ隨ニ豫定セシ難シ其費多クセシハ其收穫ノ金額モ亦隨テ多クシ故ニ今概シテ金千圓トス即一畝付金壹圓ノ賦ニ當ル

第二十二款

一前款第十九第二十第二十一ノ數款ニ掲タル諸費合計スルハ金四千七百七圓五十錢トス即耕地百町歩ニ播種ニ培養收穫

スルニ至ルノ貴額ニシテ之レヲ一及歩ニ割ル時ハ金四圓七拾錢七厘五毛ニ當ル

第二十三款

一右數款ノ費目ハ頗ル節減ヲ加タル者ニシテ實際ニ於テハ會所ノ建築年賦金並諸費會所詰社負ノ諸費人畜機械其他ノ豫備及ニ臨時費等ノ貴額ヲ要ス今之ヲ概算シテ金千貳百九十二圓五十錢トス

第二十四款

一前款第二十二第二十三款ヲ通算スルハ百町歩ノ耕作ニ對スル費額ハ大約金六千圓トナル者ナリ

第二十五款

一耕地百所歩、播種之ニ培養シ之ヲ收穫スル豫算ハ今シテ決定スル甚ク難シ候今ハ麻ヲ作シ一及歩ヨリ必金二十圓以上ヲ收シ其他作物ニ因テ各種不同ヲ生ス故其最モ培養ヲ要セス其耕作ノ簡ナル作物ヲシテ其得ル所ノ極テ寡ナキ者ニ比例シ一及歩ヨリ金六圓ヲ收ル者ト候算スルハ百所歩ニ對シ金六千圓ヲ得ル者トス

第二十六款

一前款豫算ニ拠ルキハ耕地百所歩ヲ農作スル入費ハ金六千圓トシ而テ該百所ヨリ得ル必ノ收穫モ亦同ク

金六千圓トス費益出入差引アル事ナシ

第二十七款

然レトモ農産ヲ興起シ而シテ費益相償フ迄止ルキハ誰カ該業ニ従事スル者アラヤ費除ニ於テハ及今馬鈴薯ヲ作ルモ尙及歩ノ收穫必ス八圓ヲ得ヘシ故ニ尙及歩ノ收穫又金八圓ト豫定スルキ百所歩ノ收穫ハ金八千圓トナル此内耕作費金六千圓ヲ引キ或千圓ノ紙益ヲ得者トス

第二十八款

一今茲ニ收穫六圓ト定ル者ハ初期五年間ノ豫算トス初期ハ必ス多費少收ナルハ免ルヘカヲサレ理由ニシテ

啓ハ人高ノ雇費機械ノ購收家屋ノ建築郊
野ノ測量其他百般事皆創業ニ屬シ算外
ノ費用ヲ要セサルヲ得ス故ニ初期五年ノ收穫ハ六
圓ヲ以テ起算スト雖モ實際ハ必ス其幾分ヲ増加シ
以テ臨時ノ經費ニ充テント欲ス

第二十六款

一因テ當社就業ノ年間滿十五年之ヲ三期區画
シ第一年ヨリ第五年迄ヲ初期トシ第六年ヨリ第十年
迄ヲ中期トシ第十一年ヨリ第十五年迄ヲ後期ト名稱
シテ其收穫ノ豫算ヲ分別セリ

第三拾款

一所謂初期五年間ノ收穫ハ尙及ビ金六圓ト中期五年
間ハ金七圓トシ後期五年間ハ金八圓ト算セリ故ニ滿期ノ
後ハ拾萬町歩ノ耕作費ハ六百萬円ニテ其收穫ハ八百
萬圓即チ貳百萬円ノ純益ヲ得ル者トス尤モ八円以上ノ
收穫アルキハ其高ニ從テ純益ノ加フルハ論ヲ俟サル所ナリ

第三十一款

一前條款ニ於テ新墾ノ費ト播種耕作ノ費ヲ刻リ
全リ別途ノ計算ニ附スト雖モ實際ニ臨テハ彼此ノ過不
足便宜相流通スルヲアルヘシ又各費目ノ豫算ニ於テ

モ甲ノ余贏ヲ以テ乙ノ不足ヲ補フコトアルベシ

第三十二款

一新墾耕地及播種耕作地年々着手橋奠ハ開
 墾費金高ニ充テ其支フル所ヲ度トスヘシ然レトモ事業
 ヲ開進シ可成速ニ縁定ノ全耕地拾万町ヲ悉皆成
 墾ナラシムルヲ要ス故ニ開拓使ノ許認ヲ經テ開墾費
 ヲ繰揚ケ一時借用スルヲ得ヘシ且滿十五年ニテ竣功
 ヲ期スト虽モ尚其幾年ヲ減縮シテ早ク全地成墾
 セシムルニ深ク注意スヘシ

